

2. 復興・再生が進む広野町内 (平成28年8月15日撮影)

～ 写真で見る町の復興・再生の様子 ～

① 県道広野小高線バイパス (広野駅東側地区)



JR広野駅の東側の地区では、海岸や河川の堤防を従前より高く盛土し、県道広野小高線バイパスや防災緑地の整備が進められています。県道広野小高線バイパスと防災緑地は、今年の秋に完成予定です。

② 海岸堤防かさ上げ工事 (折木高萩地区)



震災時の大津波により、海岸堤防は甚大な被害を受けました。このため海岸や河川の堤防は従前より高い8.7mにかさ上げして復旧されました。

③ 北迫川橋 (県道広野小高線)



(仮称)北迫川橋は、県道広野小高線のバイパス化により北迫川へ架かる橋で、長さ約50mのコンクリート製です。今年の秋に完成予定です。

④ 日の出橋 (浅見川河口)



県道広野小高線と町内折木地区を結ぶため、浅見川河口に新設される橋で長さ49.4mのコンクリート製です。平成29年3月完成予定です。

⑤ JR広野駅 自由通路



広野駅の東西を結ぶ自由通路(長さ38.4m)を建設中で、完成すれば、迂回せずに駅の東西を行き来できるようになります。平成29年3月完成予定です。



東日本大震災発生から5年

～ 広野町復興への歩み ～

1. 心の復興

八雲神社祭礼

7月24日、東日本大震災



鳥居に飾る大しめ縄も手づくりです



大しめ縄が飾られた八雲神社の鳥居

東日本大震災および原子力災害から5年が経過しました。広野町は、平成28年を「ふる里復興・再生」を「希望」から「成長」そして「躍動の年」と展望し、私たちの希望である「ふる里広野町」での震災前の生活を取り戻すため、「いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町」を掲げ、復興への取り組みを進めています。今回は、震災後、広野町で復興に向けて頑張っている方や、町の復興状況などを紹介します。

で被災した広野町折木の八雲神社の社殿が再建され、6年ぶりとなる祭礼が行われ

れました。

同神社の祭礼は毎年7月に行われていましたが、震災と原発事故の影響で休止を余儀なくされてい

話人をはじめ氏子らが早朝から境内の掃除など祭の準備に携わり、社殿の前に神輿を出し、鳥居に大きなしめ縄を掛け、再建された社殿で檜葉八幡神社の神職が神事を行いました。社総代は、「世話人の協力を得て震災で被害を受けた社殿や石灯



再建された八雲神社社殿と世話人の皆さん

篋を修復し、震災から5年を経て祭礼を再開することができた。今年には社殿の再建祝というところで、祭事に関係者のみの簡素なものとしたが、来年からは震災前のように神輿の浜下りも再開させたい」と意気込みを語りました。

蛇王神社祭礼

7月31日、東日本大震災で被災した広野町下浅見川の蛇王神社で祭礼が行われました。同神社は東日本大震災の津波で社殿が流されるなどの被害を受けたため、毎年7月に行われていた祭礼が中断していました。今年祭礼に氏子らが参加し、津波の被害を免れた鳥居に大きなしめ縄を掛け、檜葉八幡神社の神職が神事を行いました。



蛇王神社の祭礼に参列した氏子の皆さん